



家庭・日本語 (10)

幼児の言葉が乱暴に！？

5歳の子どもがキンダーに通うようになって、乱暴な言葉を多く使うようになってきました。英語だけではなく、弟と遊ぶ時の日本語の言葉にも、乱暴な言葉が混じり始めました。どのように指導・育てていったらいいのでしょうか？



子どもが言葉を覚える段階を大切に
友達と自由に遊ばせる。
乱暴な言葉には「しつけ」を！

言葉を最も吸収する時期

2・3歳からプレスクール、さらにはキンダーまでの時期は、人生で最も言葉（語彙）の数が増える時期です。

乳幼児の時期は、家庭内で家族が使う言葉を口移して覚えていきます。同年齢の子ども達との会話が始まると、その中から、自宅では使わなかった多くの言葉が増えていきます。話し始めてからキンダーまでの間、特に友達との会話は言語習得の基礎で、最も大切です。

言葉は家庭・社会の反映

子どもは、育つ家庭・地域・社会の使っている言葉を身につけます。私は小学生時代を漁師の村で育ちました。都会の子どものように「私」「あなた・君」ではなく、「おれ」「おまえ」が普通の言葉でしたが、中学生で都会に出たとき、「言葉がきつい」とよく言われました。都会の友達が増えるにしたがって、言葉も変わっていきました。年齢、男女、兄弟構成などによっても使う言葉が大きく変わる例は、皆さんよくご存知だと思います。もちろん、英語も日本語も同じです。

好ましい、好ましくない？

幼児にとっては、言葉に良い・悪いはありません。好ましい言葉かどうかは、親の判断により決まるのでは？

親が考える幼児にとっての「好ましくない言葉」には、話し相手を攻撃する言葉・暴力にかかわる乱暴な言葉・人を馬鹿にしたり非難したりする言葉・あまり人前では口にしない性に関する言葉・差別用語などがあります。

これらの言葉が好ましいかどうかは親や社会が決めて、「そんな言葉を使っちゃだめよ」と親や先生が指導します。家庭によりその判断が異なるので、多くの乱暴な言葉を口にする子どもが出てくるのです。

別の言い方をすると、親や友達の言葉使いを子どもが真似ているだけなのです。皆さんの言葉使いは？

言葉のしつけの日米差

アメリカでの子育ての経験から言えるのは、アメリカの方が言葉のしつけでは、厳しいように思います。

学校の廊下で「Fワード」を大きな声で連発して、停学になった子どもがいます。クラス内で差別的な言葉を口にしたり、攻撃的な言葉が書かれたTシャツを学校で着いて、厳しく指導された例を多く見てきました。

この厳しい指導は、公衆の面前で人種差別する言葉を発して人を非難したりすると「人種差別」の罪に問われる、他民族多文化のアメリカ社会の実情を反映しているのです。

言葉の豊かな日本語？

日本語が英語に比べて言葉が豊かな言語であるとよく言われます。その判断は別としても、日本語の方が年齢により使う言葉に差が大きいように思います。例えば、幼児・小学生・中学生・高校生・若者、そして大人の言葉と、日本語は年齢による単語や表現の幅が大きく、豊か（？）です。

ところが、これをアメリカの教育から見ると、「日本人の子どもはいつまでも大人の言葉で話が出来ない」という評価になります。幼児や小学生はいいとしても、「16歳の誕生日」から自立することを目指すアメリカ社会では、高校生は一人前の大人としての言動を期待されています。

言葉はしつけの結果

こうしてみると、幼児の言葉は、親のしつけの結果とみなせます。これまで繰り返し述べてきたバイリンガルも結局は、家庭での日本語による言葉のしつけと学校での英語のしつけの程度で決まるのです。幼児以後の言葉の使い方は、TPO（時・場所・場合）の違いに応じてどんな言葉や表現を使えるようになるかのトレーニングなのです。

☆

色々述べましたが、幼児の言葉の習得は「親のしつけ」の結果であることを頭に置いて、学校や地域の子どもと大いに遊ばせてください。言語習得と知的発達に最も効果的です。そして、家庭内では、ご両親がしっかりした日本語でお子さんに語りかけるよう心がけてください。

松本輝彦